

八木山校区の実態

- これまでふれあいバスの説明会を2回開催
 - 親族の心配の中、かなり高齢者が自家用車を利用せざるを得ないとしている。
 - アンケートの結果7割以上の方が、10年以内に移動手段に困るだろうと答えている。
- この団地の中には、医療機関、スーパーは無く、坂の多いまちである。
- 昨年12月の買い物支援に関するアンケートでは、将来買い物に困るだろうと言う考えの意見が多数あった。
 - リニューアルされたふれあいバスをもっとこうしてほしいと言う意見が出ていた。
 - 生活支援ボランティア活動センターには、通院や買い物のため、送迎してほしいと言う要望が多く届いている。
 - 芥見東では自分たちで路線やバス停・運行時刻を決めて、バスを運行し、人々は大いに利用し、出歩くようになったとの講演を聞いた。

ふれあいバス・路線バスの実態

- 昨年10月のふれあいバスのリニューアル運行によって、平日、合計42本/日のバスが走る街になった。路線バスが朝夕を、ふれあいバスはその間をと、すみ分けての運行になっている。
 - 路線バスは会社にとって、最も赤字であるにもかかわらず夕方から夜にかけて、30分置きに運行されている。
 - ふれあいバスは、このまちの要望を取り入れて、鶴沼宿プール方面へも運行されるようになった。
- ヤマワ・フェニックス・アピタにも行けるようになった。

願い バスを使って、いつまでも元気で過ごせるまちにしたい
(通院や買い物が自分ででき、元気を維持できる)



移動手段確保のメリット (東京都老人総合研究所新開研究部長の研究発表)

外出を1回/週以上する高齢者は、そうでない人に比べ歩行障害になるリスクが1/4、認知症になるリスクが1/3.5であり、もともと歩行障害のある人でも外出が多いほど改善している。



2016.8.6座談会 議論すること

- 市や(株)岐阜バスコミュニティに提案すること
- 自分たちとしてやることは何か



バスボランティア



- A 路線バスに関する提案、地域として取り組むことは何か
- B ふれあいバスに関して市へ提案すること、地域として取り組むことは何か
- C 八木山地区独自で移動手段を考えることはどうか